「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
3月上旬までに情報をお寄せください。

掲載料は無料です。

2 FEB

令和３年度宮城県美術館講座　作家と絵本 ―「こどものとも」の周辺を探る　第２回「絵本と前衛 - 美術のパイオニアたちの試み」
2月27日(日) 14:00▶16:00　無料　要申込

講　師　山田志麻子氏（うらわ美術館学芸員）
場　所　宮城県美術館アート・ホール（佐藤忠良記念館地下１階）　定　員　50 名
主催者　宮城県美術館、khb 東日本放送　問合先　TEL 022-221-2111

3 MAR

れきはく講座　第５回「プレイバック「戦後昭和」～豊かさを求めた若者と豊かさの中の若者～」
3月 5日(土) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　渡邊直樹氏（東北歴史博物館学芸職員）
場　所　東北歴史博物館３階　講堂　定　員　145 名（先着）
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

小池光短歌講座 2021　第 140 回
3月 5日(土) 13:30▶15:40　有料　要申込

講　師　小池光氏
場　所　仙台文学館　定　員　50 名
主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

大人の科学教室　第６回「微生物の世界」～マイクロウォッチング～
3月 6日(日) 10:00▶12:00　無料　要申込

講　師　仙台市科学館職員
場　所　仙台市科学館１階 市民の理科室　定　員　10 名（中学生以上）
主催者　スリーエム仙台市科学館　問合先　TEL 022-276-2201

考古学講座 ①
3月 6日(日) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　東北歴史博物館学芸職員
場　所　東北歴史博物館１階大会議室
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

令和３年度宮城県美術館講座 作家と絵本―「こどものとも」の周辺を探る　第３回「言葉と絵の狭間」
3月 6日(日) 14:00▶16:00　無料　要申込

講　師　長沢明氏（美術家・東北芸術工科大学教授）
場　所　宮城県美術館アート・ホール（佐藤忠良記念館地下１階）　定　員　50 名
主催者　宮城県美術館、khb 東日本放送　問合先　TEL 022-221-2111

れきはく講座　第６回「日本海東縁の古津波堆積層と遺跡―青森県深浦椿山～秋田県男鹿～山形県飛島～新潟県佐渡―」
3月12日(土) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　相原淳一氏（東北歴史博物館学芸職員）
場　所　東北歴史博物館３階　講堂　定　員　145 名（先着）
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

考古学講座 ②
3月13日(日) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　東北歴史博物館学芸職員
場　所　東北歴博物館１階大会議室
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

歴史講座第四弾　藩を支えた家臣「若宮丸漂流民 」
3月26日(土) 14:00▶16:00　有料　要申込

講　師　平川新氏（東北大学名誉教授）
場　所　東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス　定　員　200 名
主催者　東北福祉大学　問合先　TEL 022-766-8834

せんだい文学塾＜３月講座＞「歴史・時代小説での発見」
3月26日(土) 16:00▶18:00　有料　要申込

講　師　熊谷達也氏（直木賞作家）
場　所　仙台文学館
主催者　せんだい文学塾　問合先　sendaibungakujuku@gmail.com

第56回

名著への旅

『象の皮膚』

佐藤厚志 著
新潮社

（2021年6月25日　初版発行）

著者の佐藤厚志さんは、デビュー前から密かに注目の書き手だった。仙台と山形で定期的に開催されている文学講座で、何作品か佐藤さんの作品を読む機会があった。その繊細な人物描写から作者の名前を見なくても佐藤さんの作品だと氣づいたことがある。佐藤さんは、地元仙台の書店で働きながら、2017 年に新潮新人賞を「蛇沼」で、2020 年には仙台短編文学賞大賞を「境界の円居（まどい）」で受賞。本作は、佐藤さんの初の単行本であり、2021 年に三島由紀夫賞候補となった話題作である。

本作の主人公は、書店員として仙台市内で働いている二十代の女性、五十嵐凛（いがらしりん）。凛さんは幼いころからアトピー性皮膚炎と、家族を含む周囲の無理解に悩まされてきた。これまで、“痒い” ということの切実さをこんなにリアルに描いた物語を読んだ記憶がない。凛さんを取り巻く人々の理不尽さに、主人公の代わりに怒りがこみ上げ、苦しくなる。それでも、先を読み進める氣持ちが止まらなかった。読みながら、著者に「凛さんに救いを！」と直談判したい氣持ちになったが、そんな読者の氣持ちなど氣にも留めず、凛さんは淡々と苦難のなかを突き進む。めそめそしない。その強靭さに、同じ立場だったら……と考えると、自分の弱さが歯がゆくなる。

そのほか、本作の重要な読みどころは、著者の経験が色濃く投影されているであろう書店員としての働き方、非正規雇用の厳しい現実、そして、書店という空間で起きた震災時とその直後の状況が、日常の一部として、鮮明に描かれているところだろう。個性あふれる（?!）常連客との攻防も必読。（庄）

参加体験記募集中！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第54号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第54号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 大内先生が自身の博士論文を和訳して出版した書籍のタイトルは？　答え　『仏教の声の技－悟りの身体性』

Q.2 声に含まれる周波数成分の強弱を、時間に従って表したものを何という？　答え　声紋

図書カード1,000円分　図書カード1,000円分　図書カード1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「社会との対話」

2022年4月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先

〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第55号／発行日2022年1月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部　川又進　菅野麻実　三上志穂　庄司真希
オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）

協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

GREEN PRINTING JFPI P-810004　FSC MIX Paper from responsible sources FSC® C005944　VEGETABLE OIL INK　UD FONT

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台発 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2022. 1　第55号

学びの庭におじゃまします　シリーズ「東日本大震災」【11】―情報―

「知る」＋「考える」で命を守る

東北大学災害科学国際研究所　防災実践推進部門　准教授
（災害情報学・災害伝承学）
佐藤　翔輔 先生

避難の呼びかけは届かなかった

宮城教育大学　准教授
（特別支援教育（聴覚障害領域））
松﨑　丈 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『象の皮膚』（佐藤厚志）
- Voice Park

ISO 14001 JQA-EM4031

Web版 随時更新中！ まなびのめ http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は **Web 版に掲載**しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催

トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45　無料　申込不要

講　師　土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）
場　所　仙台市天文台オープンスペース
主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300

開催中

【企画展】Voice ～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語
～2月13日(日) 10:00▶17:00　無料　申込不要

月曜休館（1/10 は開館、1/11 は休館）
場　所　せんだい 3.11 メモリアル交流館
主催者　せんだい 3.11 メモリアル交流館　問合先　TEL 022-390-9022

宮城県公文書館企画展「災害と公文書」
～2月26日(土) 9:00▶17:00　無料　申込不要

月曜休館（1/10 は開館、1/11 は休館）
場　所　宮城県図書館２階 展示室
主催者　宮城県公文書館　問合先　TEL 022-341-3231

企画展「和の道具～くらしの知恵と工夫～」
～4月17日(日) 9:00▶16:45　有料　申込不要

月曜休館（1/10、3/21 は開館、1/11、3/22 は休館）
場　所　仙台市歴史民俗資料館
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　TEL 022-295-3956

1 JAN

東北工業大学　市民公開講座 No.540「生命化学による予防医学を目指した研究」
1月18日(火) 18:00▶19:15　無料　要申込

講　師　多田美香氏（東北工業大学工学部環境応用化学科准教授）
場　所　オンライン開講
主催者　東北工業大学　問合先　TEL 022-305-3810

東北歴史博物館　館長講座　第８回『「縄文」への道』
1月22日(土) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）
場　所　東北歴史博物館３階　講堂　定　員　145 名
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

仙台市天文台×東北大学大学院理学研究科 公開サイエンス講座　第２回「太陽系外惑星：第２の地球の探査」
1月23日(日) 11:00▶12:30　無料　申込不要

講　師　田中秀和氏（東北大学大学院理学研究科天文学専攻教授）
場　所　仙台市天文台加藤・小坂ホール　定　員　80 名（先着・9時から整理券配布）
主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300

れきはく講座　第１回「東アジアのなかの古代蝦夷―唐・日本と蝦夷の関係をめぐって―」
1月29日(土) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　相澤秀太郎氏（東北歴史博物館学芸職員）
場　所　東北歴史博物館３階　講堂　定　員　145 名（先着）
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

仙台白百合女子大学　オンライン研究会「カミュ『ペスト』を読む～不条理を生き抜く～」
1月29日(土) 13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　加藤美紀氏（仙台白百合女子大学カトリック研究所所長）
場　所　オンライン開講　定　員　300 名（先着）
主催者　仙台白百合女子大学カトリック研究所　問合先　TEL 022-374-5090

学びの庭におじゃまします

シリーズ「東日本大震災」も 11 回目となりました。
今回のテーマは「情報」。様々な判断や行動にとって、「情報」を得ることが、そして得た「情報」をどう生かすかが大切です。
「災害情報学・災害伝承学」がご専門の東北大学災害科学国際研究所・佐藤翔輔先生からお話を聴きました。

「知る」＋「考える」で命を守る

被災地の声に学んで防災・減災に活かす

東北大学の災害科学国際研究所で、主に災害・防災に関するコミュニケーションの問題を研究しています。被災した地域の住民や自治体はその経験をどのように伝承･継承しているのか、また災害時の防災情報や避難指示を、市民はどう受け止めどう行動するのかなどを、現地を訪ね歩いて調べてきました。

私が所属する「防災実践推進部門」は、研究所の研究成果を具体的に防災・減災に活かす役割を担っています。中でも「防災社会推進分野」では、予防から復興までのあらゆる場面、地域から国までのあらゆるレベルで災害に強い社会を作るために、市民向けの活動に取り組んでいます。

私も編集に関わって 2013 年に発表した『みんなの防災手帳』は、その成果の一つです。被災者の声を聴き、自治体と連携してハンドブックにまとめました。「発災～ 10 時間」など時の経過に応じた章立てにし、「今は何をするべきか」が分かる実践的な内容です。市町村ごとに情報を差し替えたものを作成し、自治体や企業などの協力で、岩手県では全市町村、宮城県でも 4 つの市と町で全世帯に配布しました。

また、私が執筆や監修を担当した『わかる！取り組む！災害と防災 2 津波』や『災害伝承の大研究　命を守るために、どう伝える？』という本は、小・中学生から読めるようになっています。ぜひ内容について家庭や教室で話し合うことで、実際の避難行動に結びつけてください。

その地域で過去に起きた災害や、避難の用意と方法、そして生活や事業の立て直し方など、防災・減災においては正しい情報が欠かせません。インターネットの普及で情報の量は増えましたが、災害時には不正確な情報や、状況の変化に応じていない古い情報も広まります。基本的で確実な情報を家族や地域で共有し、コミュニケーションを密に取ることが命を救い、早期の復旧・復興につながるのです。

私は東日本大震災の被災地を訪ね、住民の方のお話を聞くことに力を入れています。防災への取り組みや過去の災害の伝え方は地域ごとにどう違うのか、それは避難行動やその後の復旧･復興にどう影響するのかを調べてきました。正確な数値データをもとにした情報処理技術も活用して、災害に強い人・地域・社会のあり方を提示していきたいと考えています。

震災当日に京都を出て翌日仙台へ

私の「実際に役立つ研究」への志向は、経歴と無関係ではありません。中学の時は理科と社会が大好きで、特に関心があったのは地球環境問題です。自分は基礎から積み上げるより、具体的で明確な課題の解決に向かって勉強するタイプだと自覚していました。そこで高校・大学ではなく、高等専門学校 5 年・専攻科 2 年というルートから大学院に進みました。

長岡高専に環境都市工学科があったので「これだ」と思って入ったのですが、看板にやや偽りがあって（笑）、主に土木を学ぶ学科でした。しかし測量・土質工学・構造力学などが意外に面白く、これが災害というテーマへつながります。高専 4 年で研究室を選ぶ際は、土木から建築を経て地震防災を専門にしておられた､防災研究の先生にお世話になることにしました。

私は構造物よりも「人」に興味があったのですが、土木工学を英語でシビルエンジニアリング、「市民の工学」と呼ぶことを知り、その思いを深めました。研究で取り上げたのは阪神・淡路大震災です。避難所に来る人数は何に規定されるのか、それを試算して資源の配置に活かすことは可能なのかなどの課題に取り組みました。こうして専攻科、京都大学の大学院へと災害研究の道を歩んだのです。

京大大学院では、専攻科 1 年の時に学会で出会った林春男先生にお世話になりました。ご専門は社会心理学で、当時の所属は情報学研究科の社会情報学専攻ですから、コンピュータや情報学の高度な知識が欠かせません。土木工学出身の私には厳しい環境でしたが、やがて面白さが分かるようになり、研究職を目指すことにしました。

2010 年の夏、就職先として東北大学を受けた時の面接官は、津波工学がご専門の今村文彦先生でした。当研究所の今の所長です。採用していただき、翌 11 年の 4 月から仙台での研究生活が始まるはずでしたが、その直前に東日本大震災が発生します。

京都も大きく揺れたため、「予測されていた宮城県沖地震ではなくもっと大規模なものだろう」と思ったのですが、そのとおりでした。林先生から「すぐに宮城に行け」というメッセージが入りました。隣の研究室に津波工学が専門の若手の先生がいて､「宮城県の岩沼市に実家があるから車で向かう」と言うので、先生と交替で運転し、新潟を経由して、まず山形県にある妻の実家を目指しました。翌日には宮城県に入り、東北大学に挨拶だけして岩沼へ。幸い先生の実家も、仙台にあった私の親戚宅も津波の被害はなく、私はさっそく調査活動を始めました。

公的な情報を待たない、頼らない

被災地を歩き、住民の方々に話をお聞きし、時には食事をごちそうになり、後にはお酒の輪に加えていただく中で、「この方たちのお役に立ちたい」という氣持ちが強まりました。そして市民の意識や行動をデータ化・理論化するという、自分の研究の方向性が見えてきたのです。現地で研究対象に出会い、仮説を立て、調査・検証して論文にするという流れができました。

三陸沿岸では 1896（明治 29）年に 2 万名以上､1933（昭和 8）年に 3 千名以上が地震と津波で亡くなっています。伝承や慰霊のための石碑を建て、啓発施設を作り、経験を語り継いできながら、東日本大震災でも多くの犠牲者が出てしまいました。しかし伝承の営みは、決して無駄だったわけではありません。

昭和の三陸津波では、岩手県普代村の太田名部地区では 100 名、洋野町の八木地区では 79 名もの命が失われました。両地区ではそれ以来、石碑前での慰霊祭を 70 年以上も継続し、毎年住民が集まって清掃やお供えをし続けたのです。この伝承と結びつきが東日本大震災では地域ぐるみの早期避難につながり、どちらも死者はありませんでした。

岩手県陸前高田市の住民の意識調査でも、特に「過去の津波の被害を知っていた」「家族で話し合っていた」という人が、早期に避難して助かっていたことが分かりました。しかし災害に関する知識や避難意識の高さは、地域や自治体によって大きな差があります。過去に津波被害があった地域では「揺れたら逃げる」が基本ですが､東日本大震災から 10 年が経過した今、決して徹底されているとは言えません。

2021 年 3 月 20 日の宮城県沖地震では、気象庁の津波注意報と自治体の避難指示が出されました。それでも逃げなかった人に理由を尋ねると、「大きな津波は来ないと思った」「テレビ・ラジオ等での情報収集を優先した」という選択肢を選ぶ人が多く、経験や情報がマイナスに働いていることが分かります。「東日本大震災ほどではないだろう」と思ってしまう問題とともに、公的な情報が出るのを待ったり頼ったりしてしまう問題も深刻です。

今は地震が発生すると、すぐに津波情報が発表されますが、高さが 3 m を超える可能性がある大津波警報や、1 m 超の津波警報に比べて、1 m 以下の津波注意報では避難する人が減ってしまうのです。しかし 50 cm の津波でも、人や車は流されます。そもそも津波情報は、実際に津波を観測する前に、できるだけ早く発表するための目安に過ぎません。2016 年 11 月 22 日の福島県沖地震では発生直後に津波注意報が出ましたが、これが警報に格上げされたのは、実際に 1 m 超の津波が到達した後でした。

防災において経験や情報を「知る」ことは大切ですが、自分で「考える」力も欠かせません。「対話」によって経験や情報を確かめ合い、防災や避難について考える機会を持つことが、実際の行動に結びつきます。ぜひ家庭で、教育の場で、職場で災害を話題にしてください。

そして私たちの生活が、自然の恵みを受けている一方で常に災害と共にあるのだということを、学び、考えていただければと思います。そうした「災害共生文化」とでも呼ぶべきものを共有する社会こそが、真の意味で災害に強い社会なのです。

（取材＝ 2021 年 11 月 29 日／
東北大学青葉山キャンパス 東北大学災害科学国際研究所
5 階 防災実践推進部門 防災社会推進分野 研究室にて）

東北大学災害科学国際研究所　防災実践推進部門　准教授
専門＝災害情報学・災害伝承学

佐藤　翔輔先生

《プロフィール》（さとう・しょうすけ）1982 年新潟県生まれ。長岡工業高等専門学校専攻科卒業。京都大学大学院 情報学研究科修士課程・同博士後期課程修了。博士（情報学）。日本学術振興会特別研究員（DC2）（京都大学防災研究所巨大災害研究センター）。2011 年、東北大学に着任し、助教。大学院工学研究科附属災害制御研究センターと防災科学研究拠点（2012 年より災害科学国際研究所）に所属。2017 年より現職。監修書に『災害伝承の大研究　命を守るために、どう伝える？』、共著書に『わかる！取り組む！災害と防災 2 津波』など。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 佐藤翔輔先生も編集に関わった『みんなの防災手帳』。宮城県内で全世帯配布した自治体数は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。松﨑丈先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで､①住所､②氏名､③年齢､④職業､⑤電話番号､⑥クイズの答え２つ､⑦「まなびのめ」の入手場所､⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2022年3月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃします

「情報」を得やすい状況や環境であることが望ましいと誰もが考えますが、
いわゆる「情報弱者」の方々が、身の回りにどれだけいるか、あまり氣にとめていないことにハッとさせられます。
音声情報が届かない・届きにくい方も多く、その当事者である宮城教育大学・松﨑丈先生にお話をうかがいました。

避難の呼びかけは届かなかった

聞こえない授業を受け続けた

私は「ろう者」で、生まれた時から耳が聞こえません。意思疎通の主な手段は手話と文字です。本学で教員を務めており、聴覚障害領域の教員を目指す学生向けの授業は手話と文字を使って、それ以外の学生も受ける授業は、手話通訳者が私の手話を日本語の音声に通訳して行っています。

ゼミでは双方向のやりとりが欠かせません。日本語の音声を使う「聴者」で手話ができない受講者は、話した言葉が文字になる「音声認識アプリ」で発言します。それを読んだ私が、パソコンに文字を打ち込んで別の画面で読ませるという形です。

手話を使わない聴者には、「日本語の」音声という表現に違和感があるかもしれません。しかし主に手話を使う私たちにとって、日本語は「別の言語」なのです。手話は単に、日本語の「音声」や「単語」を手や指の表現に置き換えて、「日本語文法」の通りにつなげているわけではありません。日本語とは異なる言語体系があります。単語は、手型、運動、位置の３要素で構成し、手指だけでなく眉、あごなど顔の動きも使って文法情報を伝えます。従って手話が「第一言語」であるろう者にとって日本語は聞いたり話したりして自然に獲得することに困難があり、手話や文字などで日本語の読み書きを学ぶニーズがあります。

私のようなろう者が大学教員になる例は極めてまれです。私の場合、家族を含めて身近に聴覚障害のある者は一人もいませんでした。父が大学教員で教員・保育士養成に携わっていたことから「自分も大学の先生になって障害がある子の氣持ちが分かる先生を増やしたい」と思ったのは小学生の時です。

宮城教育大学　准教授
専門＝特別支援教育（聴覚障害領域）

松﨑　丈先生

《プロフィール》（まつざき・じょう）1977年広島県生まれ。宮城教育大学卒業。同大学院 教育学研究科 修士課程修了。東北大学大学院 教育学研究科 博士課程修了。教育学博士。2005年、講師として宮城教育大学に着任。2009年より現職。特別支援教育教員養成課程 聴覚・言語障害教育コース担当。しょうがい学生支援室副室長。東北大学非常勤講師。

母は「聞こえる子と交流する中で学ばせたい」と考え、私を当時の聾（ろう）学校ではなく、地域の小学校の通常学級に入れました。2007年に障害児の教育的ニーズに応じて必要な教育を行う「特別支援教育」が始まったことで、今の学習環境はかなり良くなっています。しかしかつての学校にそうした考えはなく、私は授業でほとんど配慮を受けられませんでした。

先生の話が聞こえないので、勉強は教科書と板書が頼りの独学です。避難訓練では放送も先生の説明も聞こえず、ただ他の子たちの後について行くだけでした。災害時に最も大切な、「自分で情報を得て判断し、自分にとって最適と考えられる行動をとる」ことは、全くできなかったのです。

障害学生が学ぶ環境を整える

私は「日本語」を学ぶため、聾学校でも補聴器を用いたトレーニングや、発音の指導を受けました。当時は「手話を使うと日本語が身につかない」という非科学的な認識が一般的だったのです。手話を覚えようと思ったのは高校時代で、大学生になってから一般向けの手話サークルに通って学びました。

大学受験を控えた高校３年になると授業が速く進み、口頭の説明ばかりで板書が少なくなりました。先生に「もっと板書してほしい」とお願いしたところ、断られた上に「聞こえていても君より成績の低い生徒のことを考えなさい」と叱られたのはショックでした。障害のある生徒を排除しながら、学校は一体どのような人間を育てるつもりなのかと怒りを覚えました。

教員を養成する大学教員を目指して、まず自分が教員養成大学である本学に入学しました。聾学校教諭の免許を取るには、小中高のいずれかで教える基礎免許も必要です。最も得意だった美術科の教員養成課程を選びました。当時は障害学生の受け入れ体制はありませんでした。自分でやるしかないと考え、2年次に手話サークルを、3年次に「ろう教育問題研究会」を立ち上げました。支援者を増やしノウハウを蓄積して、障害学生も学べる大学へと未来の教育環境を整えるためです。

教員が話す内容が文字や手話で把握できることは、聴覚障害のある人にとって大きな意味があります。私は本学の大学院に進学すると、学生有志を募って「情報保障の会」を立ち上げました。話の内容をその場で書く「ノートテイク」をしてもらい、それを読みながら授業を受けたのです。感激しました。私は小学校から大学までの16年間をほぼ独学で過ごした後で、初めて本当の意味で「授業に参加する」ことができたのです。

東北大学の博士課程に進み、修了した2005年に本学の教員に採用されると、すぐに全学的な支援体制づくりに取り組み、「しょうがい学生支援室」を立ち上げました。聴覚障害のある学生については手書きのノートテイクに加えて、電子機器が発達して通信環境も整ったことから、パソコン入力の画面表示や、先ほど説明した音声認識アプリも活用しています。

本学の取り組みは先駆的ですが、今では他大学や小中高にも広がりつつあります。また社会全体でも、障害や手話への理解が進みました。しかし、聴者と同じように学んだり暮らしたりできる状態にはほど遠いことも確かです。そして平時ではなく災害時に、いかに必要な情報が得られずに苦しむかを、東日本大震災で思い知ることになりました。

支援関係の前に対等な関係を

私は情報通信技術を聴覚障害のある者の学びや生活にどう活用できるかについても研究しています。2008年に日本でスマートフォンが発売されてからは、緊急事態に備えて様々な機能を試していました。震災当日の地震発生時、私は学内の建物の３階にいましたが幸い無事でした。しかし津波に襲われた沿岸部では多くの方が命を失いました。特に聴覚障害のある人は、サイレン、防災無線その他の避難の呼びかけが聞こえません。宮城県内で聴覚障害のある人が亡くなった割合は、全住民の死亡率の２倍以上に上ります。

停電のためにテレビもFAXも使えず、避難が遅れる上に情報収集も困難です。スマホのメールも回線の混雑で送受信に２時間かかるなどし、行政からの防災メールでさえ一部は不具合で配信されませんでした。また安否確認用の臨時電話が設置されてもFAXが導入されなかったり、自分のスマホがあっても手話での会話が可能なテレビ電話機能を知らなかったりしたのです。私自身はスマホの機能をフル活用し、集めた情報で食料を入手したり、逆に聴覚障害のある人への支援を呼びかけて連絡体制を構築するなどしました。

こうした経験を踏まえて聴覚障害のある人の被災状況や避難生活での情報面の困難について調べ、当事者や支援側に助言するなどし、また研究論文にもしています。2013年にスイスのジュネーブで開催された国連の防災プラットフォーム会合では、「東日本大震災における聴覚障害者とICTの問題」と題して国連の仙台防災枠組の作成に向けた提言を行いました。2021年３月にはNHKＥテレの番組に出演してコメントし、この放送内容が「私たちは『逃げろ』の声が聞こえない」というタイトルでNHKのホームページに掲載されています。

聴覚障害には他の身体障害にはない困難があります。それは「外見では氣づかれにくい」ために配慮されないことです。国は日本の聴覚障害者を障害者手帳所持者に限定して約24万人としていますが、これは過少で公的な支援の対象になる認定の基準が他の先進国より厳しいのです。ろう・難聴は個人差が大きく、片耳の難聴や高齢による難聴もありますし、補聴器をつけていても多くは聴者と同じようには聞こえていません。ある調査では、日本で聞こえにくさを感じている人は1000万人に上るとされています。外見では分からなくても、同じ地域や学校に十数人に一人は聞こえにくい人がいると考えれば、現在の広報体制や教育、そして災害時の避難誘導や避難所の運営に課題があることは明らかです。

私は聴覚障害のある方々に、自分から障害やニーズを伝え、配慮や支援を求めるよう呼びかけています。一部の聴者の方々は「なぜ自分からそう伝えるのが難しいのか」と思いがちですが、それは障害やニーズを伝えても配慮や支援を断られ、排除されてきた経験があるからに他なりません。しかしそれでも災害に備えて、平時から自分の状態を知ってもらい幅広く関係を結んでおくことは、安全面でも情報面でもたいへん重要です。

一方、聴者の方々にも、やはり平時からの障害のある人との交流を呼びかけたいと思います。もちろん手話を学んでいただけるのもうれしいのですが、まずは「支援する・される」という関係以前に、同じ地域で暮らしたり学校で学んだりする、対等な人間として接してほしいのです。そして時と場合によっては、障害のある人からの支援も遠慮せずに受け入れてください。私自身も研究や教育を通じて、また地域の市民として、障害のある人や防災の問題に取り組み続けていくつもりです。

（取材＝2021年11月5日／宮城教育大学　3号館1階 松﨑研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　松﨑丈先生が、国連の仙台防災枠組の作成に向けておこなった提言のタイトルは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。佐藤翔輔先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2022年3月10日 当日消印有効

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

キーワード・タグ検索もできます

まなびのめ 検索

http://manabinome.com/

2 FEB

宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界 2022

2月5日(土)〜3月27日(日) 9:00▶17:00 有料 申込不要

月曜休館（3/21 は開館、3/22 は休館）

場所 宮城県美術館

主催者 宮城県美術館、khb 東日本放送　問合先 TEL 022-221-2111

東日本大震災発生 10 年 特別企画展 「あの時、現在　〜そしてこれから」

2月5日(土)〜3月21日(月) 9:30▶17:00 無料 申込不要

月曜・火曜休館（3/21 は開館）

場所 リアス・アーク美術館

主催者 リアス・アーク美術館　問合先 TEL 0226-24-1611

れきはく講座　第 2 回 「宮城で守られた貴重図書 —東洋文庫の疎開—」

2月 5日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講　師　佐藤和道氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階　講堂　定員 145 名（先着）

主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

特別展「和の道具」関連行事 講座「仙台における筆記具 〜仙台筆・仙台硯から万年筆へ〜」

2月 5日(土) 13:30▶15:00 有料 要申込

講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員

場所 仙台市歴史民俗資料館　定員 20 名

主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

サロン講座 「クマ対策市民講座 〜生態を正しく学び被害を未然に防ごう〜」

2月 5日(土) 14:00▶15:30 無料 要申込

講　師　吉田淳久氏（株式会社地域環境計画）

場所 たまきさんサロン（東北大学青葉山新キャンパス環境科学研究科本館）　定員 15 名

主催者 せんだい環境学習館たまきさんサロン　問合先 TEL 022-214-1233

東北工業大学　市民公開講座 No.541 「デザインと出会った経営、経営と出会ったデザイン」

2月 8日(火) 18:00▶19:15 無料 要申込

講　師　下總良則氏（東北工業大学ライフデザイン学部 産業デザイン学科准教授）

場所 オンライン開講

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-305-3810

大人の科学教室　第 5 回 「星座早見缶の製作と天文の話」

2月13日(日) 10:00▶12:00 無料 要申込

講　師　仙台市科学館職員

場所 仙台市科学館 1 階 市民の理科室　定員 10 名（中学生以上）

主催者 スリーエム仙台市科学館　問合先 TEL 022-276-2201

サロン講座 「だれ一人取り残されないために 〜僕の国キリバスからのメッセージ〜」

2月13日(日) 13:30▶15:30 無料 要申込

講　師　ケンタロ・オノ氏（一般社団法人日本キリバス協会代表理事）

場所 たまきさんサロン（東北大学青葉山新キャンパス環境科学研究科本館）　定員 小学 4 年以上の子どもと保護者のペア 8 組 16 名

主催者 せんだい環境学習館たまきさんサロン　問合先 TEL 022-214-1233

第 177 回　オンライン禅をきく会 「涅槃会に想う」〜沙羅の林の物語〜

2月15日(火) 12:00▶ 無料 申込不要

講　師　千葉公慈氏（東北福祉大学学長）

場所 オンライン開講

主催者 曹洞宗東北管区教化センター　問合先 TEL 022-218-1381

東北工業大学　市民公開講座 No.542 「ヨガとウェルビーイング (Well-being)」

2月15日(火) 18:00▶19:15 無料 要申込

講　師　宮曽根美香氏（東北工業大学経営コミュニケーション学科教授）

場所 オンライン開講

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-305-3810

参加体験記

「学び」イベント参加体験記

＜東北工業大学「地域未来学」講座 11 ＞
■わくわく、キラキラのまちづくり
（東日本大震災後の気仙沼のまちづくりの考え方）
講師：小野寺憲一 氏（気仙沼市保健福祉部長）
2021 年 8 月 28 日(土)　オンライン講座

東日本大震災から 10 年が過ぎ、11 年目に入りました。オリパラや新型コロナ、全国各地で頻発する災害などの情報にすっかり隠れていますが、この 10 年、32 兆円を使った震災復興事業のハード施設は整ってきました。ただ、これで被災地は本当に復興してきているのだろうかという疑問は残ります。

本講座は気仙沼市の復旧復興に尽力された市役所職員の小野寺憲一さんの講演です。コロナ禍で利用拡大したオンライン講座により開催されました。

気仙沼市は大きな被害があったところです。講師は被災当時は現在と同じ保健福祉部に所属し児童福祉の担当だったのですが、翌年から震災復興の部署へ異動し、まちづくりの仕事を 9 年ほど担いました。復興計画に直接関与はしていないが、計画を具体的に実践していく立場になったとのことです。

講師の話は明快でわかりやすく、そして、何よりも明るくなっている気仙沼の雰囲氣を代表しているかのようでした。また、話の展開も良く、質疑の時間も含めた 1 時間というやや短めの講演時間をうまくまとめています。

真の復興とは何か、という問いに対して、地域の社会的課題の解決が真の復興であると考えたそうです。災害に強いまちづくり、人口減少対策、主力の水産業の課題、人材の育成などの気仙沼の課題に取り組みます。震災復興をテコに、あるいはバネにして地方創生、地域再生を進めていくということでもあったのでしょうか。

具体的な課題解決策の一つに人材育成のプロジェクトがあります。震災の 2 年後の 2013 年から人を中心としたまちづくりを目指して、産業人材育成・経営未来塾を開始します。10 年経た現在、育成塾からも地域の人材が育っていき、気仙沼のまちづくりが見えてきたそうです。講師は、まちづくりには終わりも完成もなく、常に次の時代のよりよい人と人のつながりを求めて、気仙沼のまちづくりは続いていく、と地元紙で述べています。これが真の復興、即ち、みらいに向けたまちづくりなのでしょう。

気仙沼には震災後何度か訪れていますが、道路の復旧工事や大島への橋梁新設工事などインフラ施設の見学が主でした。インフラ施設は国や県の力でも復旧が進みますが、まちの復興には地元の人の力が不可欠でしょう。

貴重な話を拝聴する機会となりました。

（仙台市　島田昭一）

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 55 号・冬／「枯色」（kare-iro）

宮城県内の震災伝承施設

数ある施設の中から今号では 2 カ所を紹介します。内容は各施設の Web ページ（2021 年 12 月現在）等から引用しています。開館状況など最新情報をお確かめの上、ご利用ください。

東松島市震災復興伝承館

東松島市野蒜字北余景56-36（旧野蒜駅プラットホーム隣接）
TEL.0225-86-2985
[入館無料、駐車場有]
開館時間：9:00 〜 17:00
休 館 日：毎月第 3 水曜日

「震災復興伝承館は、震災による犠牲者の追悼と鎮魂、震災の記録等を後世へ伝承することを目的に整備された東松島市「東日本大震災復興祈念公園」内に位置します。」

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第 54 号　音の世界

普段、身近でない面白い話題にフォーカスしていて勉強になった。
（仙台市泉区・69 歳）

編：ご感想ありがとうございます。私達の日常につながる身近なテーマから多様な視点で、様々な研究者をご紹介してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

「名著への旅」、宮城関係の本も紹介してください。
（大崎市・43 歳）

編：これまでの「名著への旅」で、宮城ゆかりのものでは
第 48 回『にじいろクレヨンが描いた軌跡』
柴田慈紀著　ブイツーソリューション
第 52 回『市民のネットワーキング 市民の仕事術 I』
加藤哲夫著 メディアデザイン（仙台文庫）
を紹介していました。今回は在仙書店員である佐藤厚志氏の小説『象の皮膚』です。今後もひきつづき、地元ゆかりの良書をとりあげていきたいです。

チベット仏教のイベントに参加した際お経を聞いていると不思議に落ち着いた事、成る程そうだったのかと思いました！　耳撃者、初めて意識しましたが確かに声に覚えが有る事有りますね！　記憶は何日持つか、これからは意識したい声、分かりやすい内容でした！
（仙台市青葉区・61 歳）

編：長年、継承されてきたお経の響き、抑揚、リズムなど、人間にとって心地よいものになっているのですね。「音の記憶」を意識するのは、感性を磨き、頭の体操にもなるかもしれません。

毎号、楽しく拝読しております。「学び」イベント情報はとても参考になり、参加させていただいております。　（東松島市・60 歳）

編：いつも参考にしていただいているとのこと、編集部としても大変嬉しく思います。「学び」イベントに参加した際は、ぜひ「参加体験記」として、内容紹介や感想をお寄せください。ご自身の「学び」の深まり、他の読者さんの「学び」の広がりにつながるとともに、「学術の世界」の皆さんへのフィードバックにもなりますので。

いろいろな分野で学べることがあって毎号楽しみです。
（仙台市宮城野区・48 歳）

編：創刊準備号から最新号の第 55 号まで、100 名を超える研究者に取材しております。ここまで継続できているのは、読者の皆さまの支えのおかげです。今後とも楽しい「学び」の話題を提供できるよう邁進いたします。

その他すべてのお便りと編集部コメントは Web 版でご覧いただけます。

震災伝承交流施設「March 11 Education & Exhibition Theater (MEET) 門脇」

石巻市門脇5 丁目1－1　震災遺構・門脇小学校前
TEL.0225-98-3691（3.11 みらいサポート事務所）
開館日時：10:00 〜 17:00（最終入館 16:30）
休 館 日：毎週水曜日
料　　金：1 人 300 円（税込）※高校生以下は無料

「住民目線の津波避難の教訓を 2 面シアターで上映し、子ども達が防災学習を行うスペースを設けました。子ども防災学習のスペースでは 3.11 当時の学生たちから聞きとりし漫画や映像で再構成することで、子どもたちに当事者目線で被災体験に触れてもらいます。」

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

2 FEB

東北工業大学　市民公開講座 No.543 「電波で探る自然・宇宙」

2月18日(金) 18:00▶19:15 無料 要申込

講　師　北元氏（東北工業大学工学部情報通信工学科講師）

場所 オンライン開講

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-305-3810

れきはく講座　第 3 回 「中世のやきもの —どこで作られ、どこへゆくか—」

2月19日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講　師　鈴木啓司氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階　講堂　定員 145 名（先着）

主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

特別展「和の道具」関連行事 講座「食物保存の知恵〜漬物を例に〜」

2月19日(土) 13:30▶15:00 有料 要申込

講　師　古家晴美氏（筑波学院大学経営情報学部教授）

場所 仙台市歴史民俗資料館　定員 20 名

主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

歴史講座第四弾　藩を支えた家臣 「錦織即休を中心に」

2月19日(土) 14:00▶16:00 有料 要申込

講　師　高橋章則氏（東北大学大学院文学研究科教授）

場所 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス　定員 200 名

主催者 東北福祉大学　問合先 TEL 022-766-8834

第 58 回情報リテラシー連続セミナー @ 東北大学「1 人 1 台端末はこれまでの授業技術の前提を変える」

2月19日(土) 14:00▶16:30 無料 要申込

講　師　藤原友和氏（北海道函館市立万年橋小学校教諭）

場所 オンライン開講　定員 60 名

主催者 東北大学大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム　問合先 https://www.is.tohoku.ac.jp/LINEX/seminar/

令和 3 年度宮城県美術館講座　作家と絵本 —「こどものとも」の周辺を探る　第 1 回 「『子供之友』（婦人之友社刊）の画家たち」

2月20日(日) 14:00▶16:00 無料 要申込

講　師　松本育子氏（刈谷市美術館館長代理）

場所 宮城県美術館アート・ホール（佐藤忠良記念館地下 1 階）　定員 50 名

主催者 宮城県美術館、khb 東日本放送　問合先 TEL 022-221-2111

東北工業大学　市民公開講座 No.544 「科学と経済」

2月25日(金) 18:00▶19:15 無料 要申込

講　師　亀井あかね氏（東北工業大学経営コミュニケーション学科講師）

場所 オンライン開講

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-305-3810

れきはく講座　第 4 回 「縄文人の水辺のくらし」

2月26日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講　師　小野章太郎氏（東北歴史博物館学芸職員）

場所 東北歴史博物館 3 階　講堂　定員 145 名（先着）

主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

まちなか美術講座 宮城県美術館収蔵の「絵本原画」

2月26日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講　師　菅野仁美氏（宮城県美術館学芸員）

場所 東北工業大学一番町ロビー 2 階ホール　定員 20 名

主催者 宮城県美術館・東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538

せんだい文学塾＜ 2 月講座＞ 「先達の文学から学ぶこと」

2月26日(土) 16:00▶18:00 有料 要申込

講　師　佐伯一麦氏（小説家、仙台文学館館長）

場所 仙台文学館

主催者 せんだい文学塾　問合先 sendaibungakujuku@gmail.com